

宮柎二記念館だより

2024.9.25

第 61 号

発行 宮柎二記念館

TEL・FAX

025-794-3800



令和6年度企画展 魚沼市市制施行20周年記念「宮柎二 言の葉の泉」展

魚沼市市制施行二十周年記念

「宮柎二 言の葉の泉」展

平成十六年十一月一日、旧北魚沼郡六町村が合併して魚沼市が誕生しました。今年、魚沼市は市制施行二十周年を迎えます。魚沼市には「魚沼市名誉市民」の称号を授与された方が現在七名います。七名のうち一番新しい授与者は、俳優の渡辺謙さん。また、七名のうち五名は、旧町村時代に名誉町民または名誉村民の称号を授与され、合併後魚沼市の条例によって平成十七年五月九日に魚沼市名誉市民となりました。宮柎二は、七名の中では一番早い昭和五十四年十月二十三日に堀之内町名誉町民称号を授与されています。

さて、令和五年四月一日から今年の三月三十一日まで、一年間にわたって新潟日報朝刊一面に「宮柎二 言の葉の泉」が連載され、宮柎二の短歌一首がその解説とともに毎日紹介されました。短歌の選定と解説の執筆は、宮柎二が創刊した歌誌「コスモス」の編集に携わる歌人の皆さんです。令和五年四月は六月は高野公彦さん、七月は小島ゆかりさん、十月は桑原正紀さん、令和六年一月は水上比呂美さん、二月・三月は田宮朋子さんです。

宮柎二記念館では、令和六年度企画展としてこの連載を取り上げました。一年分の連載と掲載歌に関連する資料、執筆を担当した五名の歌人の皆さんのメッセージなどを前期六月から十一月、後期十二月から三月に分けて展示します。

現在は、昨年四月から九月までの「言の葉の泉」と「言の葉の泉」で取り上げられた短歌に関する資料。そして、「言の葉の泉」四・五・六月の執筆を担当された高野公彦さんと七・八・九月を担当された小島ゆかりさんのメッセージをご覧いただけます。会期は十一月二十四日までです。その後、展示替えのために一週間休館したのち、十二月一日からは、十月から三月までの半年分をご覧いただけます。

残念ながら新潟日報の「宮柎二 言の葉の泉」は連載を終わってしまいましたが、今年には宮柎二記念館でご覧いただけます。新聞で読んでこられた方には柎二の歌と再会していただき、新聞ではご覧になれなかった方は、この機会に一年分の歌をお楽しみください。

企画展は三月末まで開催予定です。ぜひ宮柎二記念館をお訪ねください。

「宮柁二 言の葉の泉」展

新潟日報朝刊一面のコラム「文化の記憶」欄では、これまでに堀口大学や會津八一、諸橋轍次など新潟県に縁のある文化人を取り上げてきました。そして、令和五年四月一日から令和六年三月三十一日までの一年間、「宮柁二 言の葉の泉」と題して宮柁二の短歌を毎日一首ずつ紹介しました。執筆には、宮柁二が創刊した歌誌「コスモス」の編集に携わる五名の歌人が交代で当たりました。

宮柁二記念館の令和六年度企画展は、「宮柁二 言の葉の泉」展として、新潟日報の連載で取り上げられた宮柁二の短歌三百五十三首とその解説を中心に、それぞれの歌に関係する宮柁二の自筆資料や写真などを紹介しています。

現在展示中の四月・五月・六月を担当された高野公彦さんからは、「柁二短歌の魅力を伝えたい」と題する一文を寄せていただきました。同じく七月・八月・九月を担当された小島ゆかりさんは、「日付あるいは季節という符号により、茫洋とした時間のかたに、確かに生きて歌を詠んだ宮柁二の姿を垣間見ることができたような気がしている。」と執筆を終えた感想を寄せてくださいました。お二人からのメッセージも展示会場でご覧いただけます。

第一展示室 南面の展示

「宮柁二 言の葉の泉」概観

このコーナーには、「宮柁二 言の葉の泉」の連載スタートを告知する令和五年三月三十日の新潟日報と小島ゆかりさんが連載終了を振り返る令和六年四月二日の新潟日報を展示しました。二つの新聞記事の間には、後期に展示する令和五年十月から令和六年三月に新潟日報「宮柁二 言の葉の泉」で取り上げられた短歌を月ごとにまとめて紹介しています。

さらに、連載で取り上げられた短歌が収録されている宮柁二の十二冊の歌集とそれぞれの歌集の解説を岩波書店刊の全集「宮柁二集」から抜粋して紹介しています。



展示資料から

多磨歌會詠草

昭和十一年七月十一日
於日比谷 松本樓

昨年春、宮家から寄託いただきました。昭和十一年七月十一日、日比谷松本樓で行われた多磨歌會のガリ版印刷の詠草集です。用紙二枚に四十二首が掲載されています。

36 晝間見し合歡のあかき花のいろをあこがれの如く夜憶ひをり

と三十六首目に「群鶏」収録の宮柁二の歌が載っています。赤鉛筆による文字「が（か）うか」や顔のデッサンなど柁二の手によると思われる書き込みが見られます。昭和十一年八月一日発行の「多磨」八月號には、晝間みし合歡のあかき花のいろをあこがれの如く夜憶ひをり」とあるところからすると、「かうか」の書き込みは、「多磨」印刷のための校正の意味があったのかも知れません。



多磨歌會詠草
昭和十一年七月十一日
於日比谷 松本樓
多磨歌會詠草

第一展示室 西面の展示

四月の「宮柵二 言の葉の泉」

最初に四月・五月・六月の「宮柵二 言の葉の泉」を担当された高野公彦さんから寄せられたメッセージを紹介しています。続いて、四月に新聞に掲載された休刊日・連載休止日を除く28日分の「宮柵二 言の葉の泉」とそれぞれの歌に関係する資料を展示しています。



第一展示室 北面の展示

五月・六月の「宮柵二 言の葉の泉」

五月に新聞に掲載された30日分、六月に新聞に掲載された29日分の「宮柵二 言の葉の泉」とそれぞれの歌に関係する資料を展示しています。



第一展示室 東面の展示

七月・八月の「宮柵二 言の葉の泉」

最初に七月・八月・九月の「宮柵二 言の葉の泉」を担当された小島ゆかりさんから寄せられたメッセージを紹介しています。続いて、七月に新聞に掲載された30日分、八月に新聞に掲載された30日分のうちの23日分の「宮柵二 言の葉の泉」とそれぞれの歌に関係する資料を展示しています。



第一展示室 中央展示ケースの展示

八月・九月の「宮柵二 言の葉の泉」

八月に新聞に掲載された30日分のうちの7日分、9月に新聞に掲載された29日分の「宮柵二 言の葉の泉」とそれぞれの歌に関係する資料を展示しています。



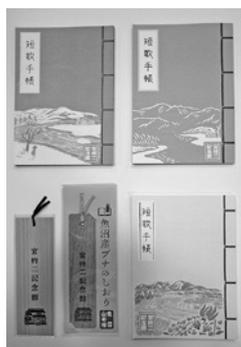
お知らせ

「コスモス」創刊号(復刻版)を販売しています。ご希望の方は、宮柵二記念館までご連絡ください。



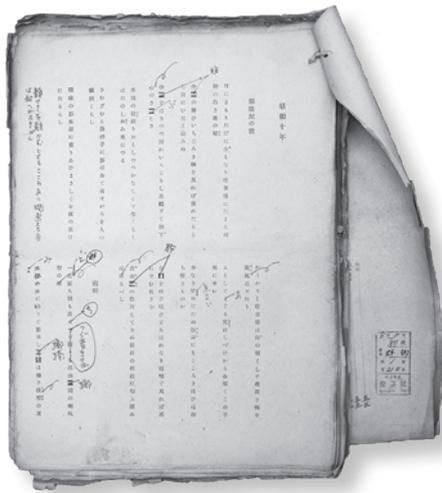
コスモス創刊号(復刻版)

宮柵二記念館オリジナルの短歌手帳と木製しおりを販売しています。お送りすることもできますので、ご希望の方は宮柵二記念館までご連絡ください。短歌手帳は三種類(青・緑・黄)、木製しおりは二種類(ヒノキ・魚沼産ブナ)あります。



歌集なども販売しております。詳細は宮柵二記念館にお問い合わせください。
 ・宮柵二ふるさとの歌写真集
 「宮柵二のふるさと」
 ・宮柵二アルバム
 ・宮柵二歌集・エッセイ集
 ・宮柵二記念館全国短歌大会歴代選者歌集 等

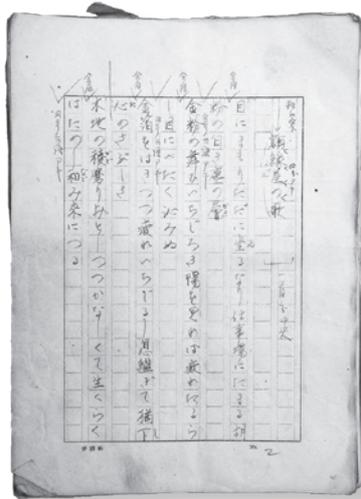
昨年の春、宮家から寄託いただきました。歌集『群鷄』の原稿と初稿です。原稿の写真は、扉部分と「額縁屋の歌」部分、初稿の写真は「額縁屋の歌」部分です。



「群鷄」

初校 8月5日

初校「額縁屋の歌」部分



「群鷄」

原稿

原稿「額縁屋の歌」部分



「群鷄」

原稿

原稿 扉部分

「謹みて／故北原白秋先生／
竝に／父母に捧ぐ」とあります。

「宮柁二記念館ホームページ」のお知らせ

宮柁二記念館では、開催した講演会の様子をYouTubeで配信しています。宮柁二記念館のホームページからご覧いただけます。

「企画展開催記念講演会」については、令和四年高野公彦さん、演題「宮柁二の抒情と叙景」。令和五年桑原正紀さん、演題「宮柁二の継承」。令和六年小島ゆかりさん、演題「キーワードで読む宮柁二の歌と現代短歌」を配信しています。

「宮柁二講座」については、田宮朋子さんによる講演を令和二年分からご覧いただけます。演題は、二年「宮柁二のふるさとの門弟」、三年「宮芳平と宮柁二」、四年「高野公彦、『柁二』を詠む」、五年「柁二と戦争」、六年「『言の葉の泉』を読む」です。

ぜひご覧ください。

「宮柁二記念館短歌教室」のお知らせ

宮柁二記念館では、歌誌「コスモス」選者の橋芳園さんを講師として、「宮柁二記念館短歌教室」を開催しています。四月・八月・十二月を除く年九回、原則として毎月第二日曜日に宮柁二記念館に隣接する堀之内公民館で歌会を開催しています。年度途中からの参加、添削のみの参加も可能です。

年会費は3,000円です。詳細は、宮柁二記念館にお問い合わせください。

「宮柁二記念館友の会」のお知らせ

宮柁二記念館の活動支援と会員相互の交流を目的とする「宮柁二記念館友の会」の会員を募集しています。会員は、宮柁二記念館への入館料が免除されます。また、記念館日より等が届けられます。

年会費は1,000円です。詳細は、宮柁二記念館にお問い合わせください。

宮柁二記念館だより 第61号

発行 2024. 9. 25

問合せ 宮柁二記念館 (〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6) TEL・FAX 025-794-3800

メール miya-museum@city.uonuma.lg.jp ホームページ <https://www.city.uonuma.lg.jp/site/miyashuji/>